

# 「中世宇都宮氏の在京活動と東大寺」に関する本



## <宇都宮氏の在京活動および東大寺との関わりについて>

### 『中世宇都宮氏～頼朝・尊氏・秀吉を支えた名族～』

(栃木県立博物館／編集・発行 2017)【K288/ト】

「宇都宮氏による東大寺への作善」(山本亨史／著, p. 31)を収録。また宇都宮朝綱の作善によって造立されたとされる観音菩薩像の絵が「東大寺縁起」(奈良国立博物館所蔵)より引用されており、その姿が確認できる(実物は1567年に焼失)。

## <宇都宮氏の概要について>

### 『中世の名門宇都宮氏』

(下野新聞社編集局／編 下野新聞社 2018)【K288/シ】

下野新聞での連載をまとめたもの。宇都宮氏22代、500年以上にわたる歴史の流れがコンパクトにまとめられている。朝綱による東大寺への作善にも触れられている(p. 47)。

### 『中世宇都宮氏の世界 下野・豊前・伊予の時空を翔る』

(市村高男／編著 彩流社 2013)【K288/イ】

下野宇都宮氏、豊前宇都宮氏、伊予宇都宮氏という宇都宮3系統を包括的に取り上げた研究書。平成23年11月に開催された「宇都宮シンポジウムー中世武士の移動と地域交流ー」が基となっている。

### 「鎌倉時代京都周辺における宇都宮市の活動と人的つながり」(木村真理子)

(『栃木県立文書館 研究紀要 第21号』所収 栃木県立文書館／編集・発行 2017)

【K288/ト/21】

鎌倉時代の宇都宮氏(五代目・頼綱から九代目・公綱まで)の活動についてまとめられている。著者によると、京都における宇都宮氏の活動が特に活発だったのは鎌倉前期・頼綱の孫の代まで。

### 『東国武士と京都 同成社中世史選書19』

(野口実／著 同成社 2015)【K210.4/ノ/15】

タイトルの通り、宇都宮氏に限らず東国武士と京都の関係について述べられている。宇都宮氏についての記述は、第Ⅲ部第三章「下野宇都宮氏の成立と、その平家政権下における存在形態」を参照。

## <東大寺に関する資料>

### 『東大寺辞典』

(平岡定海／著 東京堂 1980)【188/ヒ】

東大寺に関する人・物・事に関する辞典。巻末には年表ほか、平安時代から江戸時代までの年中行事表などが採録されているなど付録も充実している。なお、宇都宮氏についての項目はない。

## 『東大寺の歴史 日本歴史新書』

(平岡定海／著 至文堂 1977) 【185/ヒ】

『東大寺辞典』の著者によって書かれたコンパクトな歴史書。東大寺の創建から明治維新までの期間を扱っている。鎌倉時代については第三章「鎌倉期における東大寺再建」を参照。

## 『重源・叡尊・忍性 日本名僧論集 第5巻』

(中尾堯・今井雅晴／編著 吉川弘文館 1983) 【185/ニ/5】

鎌倉期の東大寺再建の中心人物、重源(ちょうげん)についての研究書。東大寺の復興を命じられた61歳のとき以来、重源は86歳で没するまで人生のすべてを東大寺の復興に捧げたと言われている。

### <県史/市史に残る宇都宮氏・京都との関わりについての記述>

『増補改訂 下野国誌』 (河野守弘／著 下野新聞社 1989) 【K290/コ】

『栃木県史 通史編3 中世』

(栃木県史編さん委員会／編 栃木県 1984) 【K200/ト/1-3】

『宇都宮市史 中世通史編 第三巻』

(宇都宮市編さん委員会／編 宇都宮市 1981) 【K210/ウ/3】

どの本においても宇都宮氏の京都での活動、および東大寺との関わりについての記述がある。『下野国誌』(p.384)によると、東大寺の大仏造立に関して宇都宮朝綱が出した費用は6万貫。『栃木県史』はこれを「極めて大きな負担であった」(p.373)と述べている。『宇都宮市史』には、この造立事業については「長く宇都宮一族の誇りとするところ」(p.83)であった、という記述がある。

## 『郷土史事典 栃木県』

(新川武紀／編著 昌平社 1978) 【K203/シ】

原始・古代時代から明治の田中正造まで、栃木に関するトピックが項目ごとに短くまとめられ、開設されている。なかには「東大寺「脇侍観音像」を宇都宮氏が建造」(p.49)という項目もある。

### <宇都宮氏に関する鎌倉時代の記録>

『現代語訳 吾妻鏡 6 富士の巻狩』

(五味文彦・本郷和人／編 吉川弘文館 2009) 【210.4/ゴ/6-09】

『吾妻鏡事典』 (佐藤和彦・谷口榮／編 東京堂出版 2007) 【210.4/サ/07】

『吾妻鏡』は鎌倉時代に書かれた歴史書。治承4年(1180)から文永3年(1266)までの期間の出来事について書かれており、宇都宮氏の名前も登場する。東大寺の造営と宇都宮氏の関係については、建久5年(1194)6月26日の欄に記述あり。現代語訳版では第6巻47ページ。なお『吾妻鏡事典』には宇都宮朝綱の項あり。巻末には年表も付属。

館内閲覧のみの資料も含まれています。

この他にも資料がありますので、図書館職員にお気軽にご相談ください。

---

宇都宮市立中央図書館

〒320-0845

宇都宮市明保野町7番57号

TEL : 028-636-0231 FAX : 028-639-0740

9:30~19:00 (金曜休館)

---